

“エッセンシャル・ワーカー”としての のワーカーズ・コレクティブの価値



本日のメニュー

- 1 自己紹介
- 2 「エッセンシャル・ワーカー」と言われて…
- 3 「共に働く・協同労働」の広がり
- 4 ワーカーズ・コレクティブの価値～可能性と課題
- 5 現代社会で「共に働く」を地域展開していく際に重要なこと

話題提供 田中 夏子

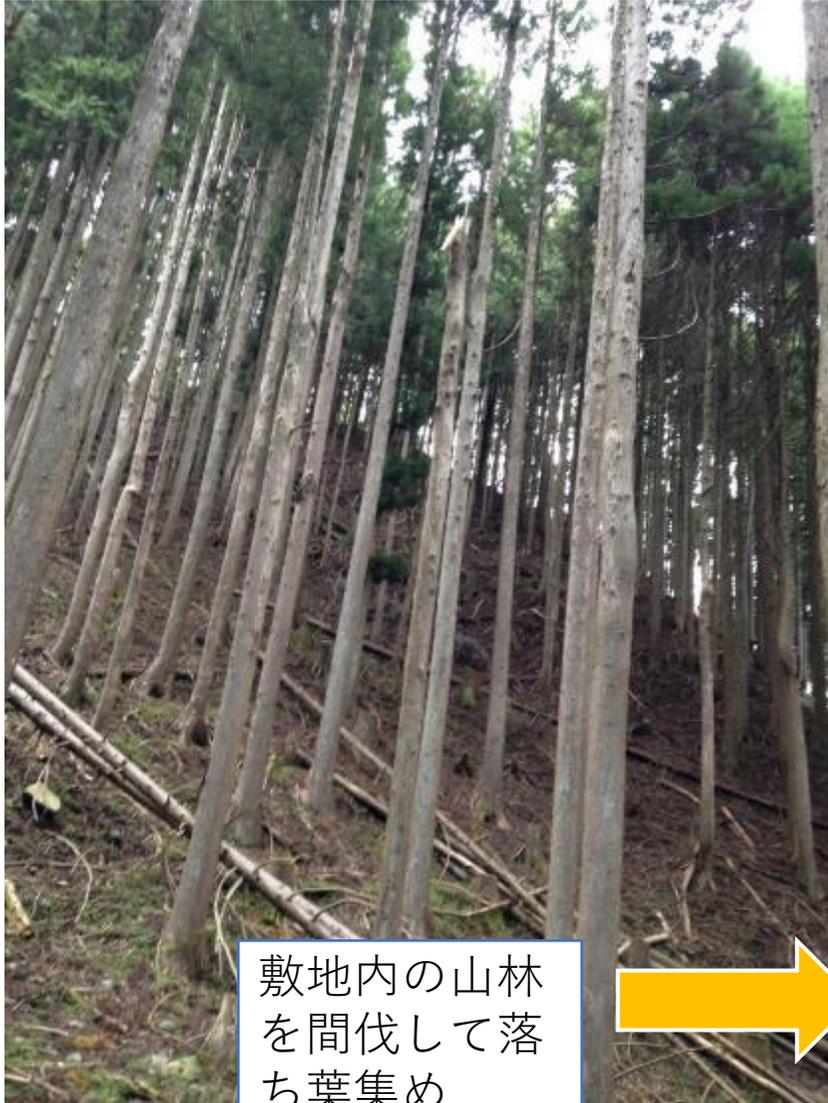
イタリアの社会的協同組合(社会的排除と闘う活動)やコミュニティ協同組合(再生可能エネルギー等地域資源を軸とした、イタリア中山間地の地域再生)、ワーカーズ・バイ・アウトによる事業再生(労働者協同組合)を研究しています。専門領域は地域社会論、協同組合論。2013年から農ある暮らしを志して、27年間の雇用労働からひとまず撤退し、協同組合に関わりつつ自営的な暮らしを組み立て中。日本協同組合学会前会長(2017-2019)、長野県高齢者生活協同組合理事長(2019-)長野県佐久市にて農園Vento e Terra (風と土) 園主。

自己紹介



- 教育・研究活動の一環としての農村通い、日本・イタリア問わず
 - 「農」が持つ解放力を実感？ 理屈はいろいろあるけれど、もっとトータルに知りたい
 - 「自然」とあまりにも切れた生活、発想への不安
 - 原発事故以降、循環型、無農薬、無化学肥料の農へ・・・土づくりを前提とした農へ

自己紹介



敷地内の山林を間伐して落ち葉集め



落ち葉、糠、鶏糞、稲藁でたい肥づくり



卵の共同購入先の養鶏家の鶏舎にうかがって鶏糞をたっぷりいただいています



自己紹介



- 一番山際の畑の麦・大豆も何度となく獣害
- 作物のケアより獣害対策に時間と費用
- 放棄地の拡大が進む中山間地

“エッセンシャル・ワーカー”と言われて…

Essential って？

「不可欠の」「絶対的に重要な」「本質的な」「根本的な」「必須の」
「生存・生活にとって不可欠な」

従来の使い方→生活インフラを支える公共的なサービスの担い手を指す**狭義**の言葉
— ジニアス 英和大辞典→essential services=(水、ガス、電気など)生活な不可欠な
公益事業」

— 新聞記事(当初)の使われ方→「緊急事態宣言で休業や外出自粛が要請される中、医療や行政等新型コロナウイルス対策の最前線を担う関係者と同様に、働き続ける人たちがいる。日常生活を支える「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる人たちだ。ゴミ収集員、バス運転手、スーパー店員。…後略…」(朝日新聞2020.05.03)

参考→デヴィッド・クレーバーが提唱した「**ケア階級**」(医療、教育、介護、保育)に公共交通運転士、廃棄物収集員、スーパー店員を加え、**広義**の「ケア階級」=「**キー・ワーカー**」(朝日新聞2020.06.01プレディみかこ「欧州季評」)

“エッセンシャル・ワーカー”と言われて…

◆高まる「エッセンシャル・ワーク」**賛美・感謝**に対し**警戒感**(朝日新聞2020.09.03)

介護・保育ユニオン共同代表 三浦 かおりさん

- ・エッセンシャルワーカーからの**労働相談の急増**
- ・賃金カットや感染対策不十分等、「**不安を抱えながら働く人への配慮や利用者の安全**より、利益を追求する施設」の存在
- ・環境改善を訴える保育士の不当配転
- 保護者が自治体に働きかけ、配転撤回と環境改善を実現

研究者 社会的選択論 坂井 豊貴さん

- ・「エッセンシャル・ワーカー」はいう呼称は**敬意**のあらわれ。これにより社会が「リスペクト」という「**金銭ではない報酬**」を提供。
- ・しかし「**皆で身銭を切って**エッセンシャルワーカーを支えようというところまではいきません」。
- ・「私たちの**連帯心**は『エッセンシャルワーカー』という**言葉で待遇改善の後押しをする程度**なのだと思います。この日本**社会の冷淡**さを私たちは直視しなければなりません」。

研究者 教育社会学 本田由紀さん

- ・「雇う側が『**やりがい**』を強く意識させることで、働き手が低賃金や長時間労働といった環境に順応してしまう」
- ・「**やりがい搾取**」(2007～本田さん提唱)エッセンシャル・ワーカーもその**1類型**
- ・対人サービスは「**献身的に顧客のニーズに最大限、応えようとして働きすぎる傾向**」

絶対的に必要なところに、その尽力に見合った対価が行きつかず、
その手前で社会的認知やリスペクトが**ストップ**してしまう社会を問う概念…田中

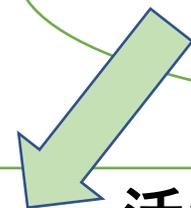
“エッセンシャル・ワーカー”と言われて…

Key Worker(=広義
のEssential
Worker)の仕事領域

≡



確かに重なりが大きいもの
の…エッセンシャルワーク
をW.Coと関連づける際…



ワーカーズ・コレクティブ の仕事領域

弁当・配食、移動、子育て、学童、
介護(高齢者、障がい者)、困窮者
支援、薬局、生活必需品や食品の
店舗運営、文化・学習(就労支援含
む)、生活支援、リサイクル、物流
業務等、そしてこれらW.Coを支
える中間支援…。

活かせる点(キーワーカーとの共闘)

- あらためて、私たちの暮らしに不可欠の事業領域であることが明確化→社会的認知
- にも拘わらず、不可欠性に対応した対価が保障されず(低分配、長時間労働)、事業の持続の困難となる制度の理不尽さ、露呈

留意点

事業領域が重なるという点だけは語り切れない、**どのようにそれを実現するか**という点にW.Coの「本領」があるのではないか

“エッセンシャル・ワーカー”と言われて…

(前頁より) **留意点**

事業領域が重なるという点だけは語り切れない、**どのようにそれを実現するか**という点にW.Coの「本領」があるのではないか

○ **いのちと暮らしを支える仕事**は、必要不可欠な「職種」として規定されるだけでは不十分。なぜなら、その仕事は、それを取りまく **社会関係に依拠して成立**するから。

○ 市民の **いのちと暮らし** を当事者の視点に立って支え、ケアの受け手とケアワーカーの **尊厳の双方** を守り、それを取りまく **関係者の連携を豊かに**しながら、それらの取り組みを持続させるために、 **コミュニティに働きかける** 仕事・働き方

○ そうした仕事は、 **事業者やそこに働く人たちの尽力だけで可能となるものではなく**、コミュニティ自体、及びそのコミュニティが存する自治体の尽力をもって初めて可能。

“エッセンシャル・ワーク”という概念に意味があるとすれば…
「エッセンシャル」でありながら、なぜそこに **まっとうな対価が保障されないのか？**
その不条理な社会の仕組みを問う契機として。

“エッセンシャル・ワーカー”と言われて…

「ブルシット・ジョブ」(Bullshit Jobs デヴィッド・グレーバーによる造語) 岩波書店2020



働いている本人にとっ
てすら、その仕事の存在
の正当化が困難で、無意
味、有害な仕事、にもか
かわらず、意味あるもの
として取り繕わなければ
ならない仕事＝ブルシッ
ト・ジョブが、なぜかく
も私たちの社会に蔓延し
ているのか？またなぜブ
ルシットに富みが集中す
るのか？

「エッセンシャル・ワーク」

真逆！

「ブルシット・ジョブ」訳者、
酒井隆史氏が訳者あとがきにて、
パンデミック後のグレーバー
の語りを紹介

「非ブルシットジョブとしての
伝統的な生産労働とケア労働」

「もし『経済』なるものに何か
実質的な意味があるのだとした
ら、それは当然人間が－命を守
るためにも活気ある生活のため
にも－互いをケアする手段を指
し示すものであるはずだ」

(420-422頁)

「共に働く・協同労働」の広がり

団体名

活動の担い手、経過等

ワーカーズ・コレクティブ

- ・ 国際的な協同組合運動の中から提唱された「協同組合による地域づくり」(1980) を生協運動陣営が方針化
- ・ 1982年 生活クラブ生協の事業拠点で「にんじん」発足（生協業務請負、出し弁当）。
- ・ 「もう一つの働き方」→「コミュニティ・ワーク」（1995～神奈川等）
協同組合の精神に基づき、一人ひとりが対等な立場で自主的に自己決定し責任持つ協同の働き方
- ・ 働く人の協同組合として、人間的、社会的、経済的自立をめざす人々が、**地域社会の多様なニーズ**に対応するために、**コミュニティに開かれた労働**の場を協同でつくり、その**「生み出された価値」**を共有し、分かち合う
- ・ 働きにくさを抱えた人たちとともに「共に働く」仕事文化の開拓・実践
- ・ 事業内容・・・仕出し弁当、配食、居宅家事援助・介護サービス、保育、学童保育、児童デイ、健康体操指導、鍼灸、薬局、再生可能エネルギー、事務業務受託、リサイクル、編集、調査、配送、生協からの受託業務等

「共に働く・協同労働」の広がり

団体名

活動の担い手、経過等

ワーカーズ・コープ

- ・失業対策事業の打ち切り（1971）に対する労働組合の反対運動の一環としてその存続を地域社会に訴える中で発足。1979年自治体からの仕事を受託、労働者集団がそれを担う事業組織が日本各地展開。全国協議会として結束
- ・「**雇われない働き方**」＝働く者が出資・経営・運営を担う「労働者協同組合」
- ・「雇われない働き方」→「**協同労働＝労働者相互・労働者と利用者、事業組織と地域の三つの協同**」（1990年代後半～）
- ・「仲間と連帯して事業を起こし、協同して働くことにより、人たるに値する生計を立て（共助を通じた自助）」、及び、「（事業）剰余を地域社会の発展のために役立てようとする組合員の意思（公益の関与）の実現」（2009）
- ・「**社会連帯経営**」（2004）→「働く人々のみならず、利用者、地域市民が当事者・主体者として、地域課題に関わり、連帯しながら地域再生に取り組む」
- ・事業内容…子育て（放課後等児童デイ）、病院・福祉施設等建て物管理、コミュニティセンター等運営管理、介護保険、介護予防、若者・生活困窮者支援、配食、リサイクル等F E C、農業、林業、再生可能エネルギー

「共に働く・協同労働」の広がり

団体名

活動の担い手、経過等

共同連

- ・ 1970年代～障害のある人とない人との**共に生き・働く場づくり**各地で進む
- ・ 「障害者と健常者が共働」「障害者の労働権の確立」を目的として1984年10月に「差別とたたかう共同体全国連合」（共同連）設立。
- ・ イタリア社会的協同組合の考え方のうち、特に「ハンディを持つ労働者の割合が30%以上」「ハンディ、三障害に限らず、薬物・アルコール依存・刑余者、家庭環境に恵まれない未成年など、幅広い社会的なハンディを指す」「ボランティア組合員なども含め障害のある人もない人も対等な組合員」に共感し、この発想を取り込こんで、**社会的事業所宣言**(2009年)
- ・ 「様々な困難とたたかう人々（社会的排除を受ける人々）との連帯による、労働市場から排除されている人々の「社会的事業所」づくり」の提唱、制度化にむけた取り組み。
- ・ 労働者協同組合の先にある**社会的協同組合B型**への展開(2019)

*事業内容…パン、クッキー、豆腐、食堂、カフェ、自然食、有機農業、印刷、清掃、リサイクルショップ、介護サービス

「共に働く・協同労働」に集う市民の広がり

その他でも、「社会的排除の当事者」による仕事起こしが展開
こうした社会運動由来の協同労働…1970's後半から各地で展開
長らくは孤軍奮闘の中で、ネットワークの形成

しかし！
近年！

○働きにくさが増す職場

→**ディーセントワーク** (人々が大事にされる働き方 by ILO)への関心

○市町村合併や極端な市場主義による地域の切り捨て

→排除される人々、排除される地域の増大…住民発のコミュニ
ティー事業、「共に働く」実践が活発化

→人々が大事にされる地域づくりに協同労働がどう挑戦？！

「ディーセントワーク」とは？…ILOは2001年、本来仕事とはかくあるべきと規定

– 働きがいのある人間としての尊厳が保障される生産的な仕事

– 働く者の権利と自治を尊重し… (中略) …自分の才能を表現し、人類共通の利益に貢献し、

– 地域と深く有意義に関わる方法の一つ

田中…Decent=自分が痛い目にあわない、そして他の人や自然を痛い目にあわさない

ワーカーズ・コレクティブの可能性と課題

2017.秋、食のワーカーズで二日間研修①地域の食を支える～その手応えとは！

「私は食品科学を学んだ後、牛や豚の飼料に関わる仕事をしていました。ですから生活クラブを知って、このものは一般の市場に出ているものとは全然違うこと、強く実感しています」Aさん

⇒素性が確か信頼できる食材を使用している自負心！

「食べ物の効果はなかなか確認できないもの。お店に来た利用者さんから「やっと体調がよくなってきた」と聞くと、ああよかったと」。Tさん

「1人暮らしでここの配食事業をもう20年ぐらい利用している方がいます。配食を始めた当初のご体調を思い起こすと、その後20年、元気に暮らしていらして、それを見ると私たちがお届けするお弁当が間違いではなかったんだなあ実感します。

口が重い方なので、あまり会話がなけれど、「待っていてくれる」と感じています」Sさん

⇒事業の意義を長いタイムスパンの中から浮上するものと捉え、だからこそ事業の継続を重視する。



ワーカーズ・コレクティブの可能性と課題

2017.秋、食のワーカーズで二日間研修②
事業の持続性をどう高めるか？

「今は、通常と比べ、様々な事情で3~4名のメンバーが健康上の理由や家庭事情で動きづらい状況なので、常時入っている人が休めなくなっています。ギリギリのメンバーではなく、2割程度の余裕がないと、私たちも高齢化してきているから負担が大きいです」。(本W.Co全体で60代以上が6割) Tさん

⇒体調にふさわしい、持続可能な働き方の模索

「40代で一番ばりばり働ける人がいません。その部分が空白になっていることも課題」Aさん。

「自分たちの当面の労働時間を減らしても、将来的に事業を維持するためにもっと人をいれて育てていこうという考えが、今まで（私たちの中に）は無かった」Sさん

⇒その時々への対応に必死だった⇒長期的なスパンでの、働き方の構想が課題

「自分の出られるところは全部出たい、という傾向..略..でも、私たちはそれがW.Coのよさ、という言い方をしてきました」

「現在は、介護、子育て、孫育てと両立する働き方は今後も重視する必要があるものの、同時に、事業全体を把握できるように情報を共有することで、「この日、この時間帯が大変そうだから自分がここに入るようにしよう」とか新しい人が働きやすい体制をつくる必要」

Oさん⇒「柔軟な働き方」の含意を自己都合から少し転換

ワーカーズ・コレクティブの可能性と課題

仕事のシェア方法

- ◆各ワーカーズ・コレクティブがそれぞれの事業内容やメンバーによる話し合いに依拠して、**自分たちのやり方を開拓**。
綿密なルールづくり、頻繁なルールの見直し協議
- ◆希望所得額や扶養に関わる事情に応じてシェア、休業申請に応じてシェア、基本的な労働時間をあらかじめ決定、ワーカーズ・コレクティブを主収入源としている人を優先する等、さまざまなやり方を自分たち協議・選択。
- ◆細やかな調整の結果、**責任者、役員、施設長等がフォローに入り、負担が集中**
しかし・・・
- ◆調整のコストを懸念しつつも「個々のメンバーの希望や事情に沿った仕事のシェア」そのものは否定せず、維持の覚悟。

○しかしこのままでは・・・**中堅メンバー**の「働きつづける条件」にとってはリスク要因。
○**個々のメンバー**の事情に配慮しながらも、責任者に負担が集中しない「働き方」とは？

ワーカーズ・コレクティブの可能性と課題

共に働くを深化させる

◆「ともにはたらく」文化の形成過程

- ・女性の働きにくさ…自分たち自身も「様々な条件」を保有
→W.Coへの共感の一つの要因→配慮しあう働き方を、当初から開拓
「ともにはたらく」文化の基本形を形成。

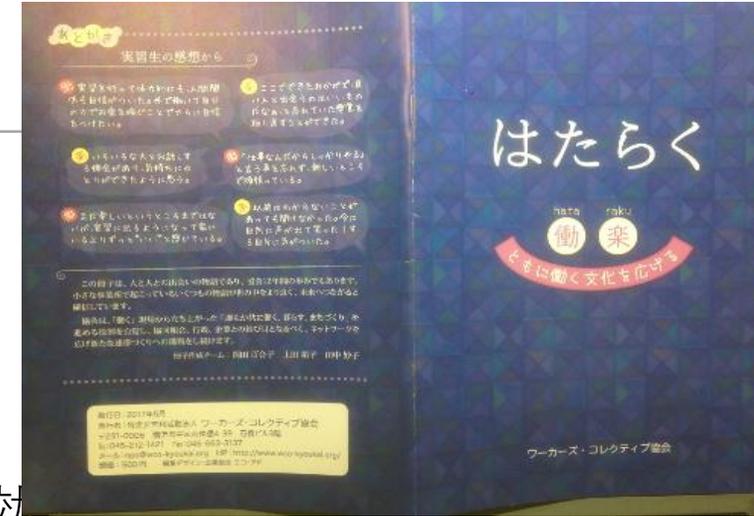
さらに・・・

- ◆こうしたワーカーズ・コレクティブのもともとの力を社会的課題への効果的な対応につなげる仕組として、2004年以降、NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会の取り組み(障がい者の職場体験、困難を抱える若者就業定着支援、保護世帯若者社会体験事業、社会的事業所の試行(キッチンぽらん))

さらに

- ◆上記事業への協力ワーカーズ・コレクティブで「ともにはたらく」文化展開
当事者主体のワーカーズ・コレクティブとの連携事業の発足

(はっぴー&キャリア)「実習協力」から「ともにはたらく」仲間としてのむかい入れへ



ワーカーズ・コレクティブ協会発行

「ともにはたらく」文化の延長・拡充

ワーカーズ・コレクティブの可能性と課題

図表 2-3 「共に働く」経験によってワーカーズ・コレクティブ側に生じた変化(回答例)

障がいや多様性についての考え方の深まり	2014WNIJ 全国調査 結果報告 書より
障がいに対する理解が深まった(3団体)	
多様な人たちの社会参加への理解は深まった。(4団体)	
配慮・支え合いの関係の拡充	
人への配慮をより考えるようになった。見守る姿勢を持つようになった。	
支え合う気持ちを持てる。お互い様の気持ちが強くなる	
当事者の変化がワーカーズ・コレクティブにとっても自信・やりがい	
人が変わっていくことを真近で見ると次の受け入れができるようになる	
関係機関からの感謝や本人の成長や働くことへの意識の変化を知ることでメンバーのやりがいにつながっている。	
ワーカーズ・コレクティブの社会的使命の実感の広がり	
ワーカーズ・コレクティブはそういう使命(様々な条件の人を受け入れる)をもつという意識の変化は少しずつ培われた。	
当事者の姿によって、メンバーにとっても働く場としての可能性が拡大	
メンバーも経験・力量の差が大きい。それに対しての分配の差を付けていないので、時には不満ともなるが、その人の持っている力量でのワークを許容する範囲が広がった。	
様々な条件が出て働き続けられる。迷惑をかけるので退会するという言葉が聞かれなくなった。	
生涯現役であり続けるために周りが支えている。仕事はケア以外にもあることを実践で見せていて、そういう方がいることが大事と捉えている。	
特にない(9団体)	

「ともに働く」文化～従来のW.Co文化からの延長と飛躍

- ①障がいや多様性
についての考え方の深まり
 - ②配慮・支え合い関係の深まり
 - ③当事者の変化
W.Co側にも自信・やりがいを提供、
 - ④W.Coの社会的使命実感、再確認
- ★
- ⑤「共に働く」中で、メンバーにとっても働く場としての可能性が拡大
「私、体が難しくなっても辞めなくていいんだ！」

現代社会において、「共に働く」を地域展開していく際に重要なこと

「成長産業化」「競争力強化」「効率化」「民間意欲の活用」
公益的機能が重要な食・福祉・農林水産、水、環境等あらゆる場
面で営利的な企業の参入を促進…(by政府)

公的機能が希薄となった地域の課題
「住民主体」「非営利的な事業組織」
が担い手となって…(by政府)

こうした状況下で

私たちの求められる視点とは…

自分たちの組織、活動領域に**限定せず**、**協同組合**ひいては「**公共的領域**」が
どう改編されようとしているのかという、**広角的な視点の重要性**

- 自分たちの**足元の生活基盤を守りぬく**…これは協同組合陣営が共有する当然の課題意識
- それを成り立たせている社会の仕組みを、**社会的共有財**として保全・拡充…
- 公害規制、環境保全、食品安全、医療・福祉等、市民が激しい攻防を経て得た**社会的共有財**多数。
しかし現在、これらが切り崩される時代⇒**絶えず**、**その後退傾向を監視し**、**抵抗続ける活動**必要。
これらは、文字通りの生命線であると同時に、非営利・協同労働の持続的運営にとっても重要基盤！

社会の共有財としてワーカーズ・コレクティブ…
これを社会がどう活かし、持続可能な形で育てていけるのか？

現代社会において、「共に働く」を地域展開していく際に重要なこと

東京W.Co連合会のWebサイト W.Co働き方の説明

家庭や地域に必要な「家事・子育て・介護」などを社会に有用な労働と捉え、産業優先から生活優先の社会システムづくり

“エッセンシャル”ワークの担い手

神奈川W.Co 連合会 価値と原則2004

地域でより直接的に交換でき使いやすいことを想定する自主管理価格 = 市場への牽制力ともなる「コミュニティ価格」

自分たちも利用当事者の視点 = コミュニティ価格

全国W.Co原則①社会的、経済的自立をめざす人々が地域に開かれた労働の場を協同で作り出す

- ・主として配偶者の収入によって生計…44%(②)
- ・W.Coの収入が生計上必須のメンバー…28%(②)
- ・何らかのハンディのある人とともに働く場…21%(②)

働き手ニーズの多様化

全国W.Co 原則4…公正な労働所得および社会的保障の実現

- ・「生産ワーク」…83%の調査対象が最低賃金≦分配金(①)
- ・過半の団体が「最低賃金」を強く意識して事業計画策定(①)
- ・労災加入8割、社会保険加入6割、退職金制度3割(②)

働く者の権利保障への努力

出典①ワーカーズ・コレクティブのガバナンス・協治調査(実施2013-2014)、
出典②ワーカーズ・コレクティブの課題抽出にむけた実態調査(実施2018)

いのちと暮らしを支える食や広義のケア、文化へのアクセスを、地域の人々に保障するワーカーズ・コレクティブ事業の公共性を前面に出し、協同組合陣営がこれを支えるとともに、自治体としての支援体制づくりにつなげる必要(支援条例)。

これだけの要件を満たしながら運営する市民事業がなりたつ社会をつくる